

コラージュ(切り貼り絵)を用いて住み手の意識を建築に変換

解説／連 健夫

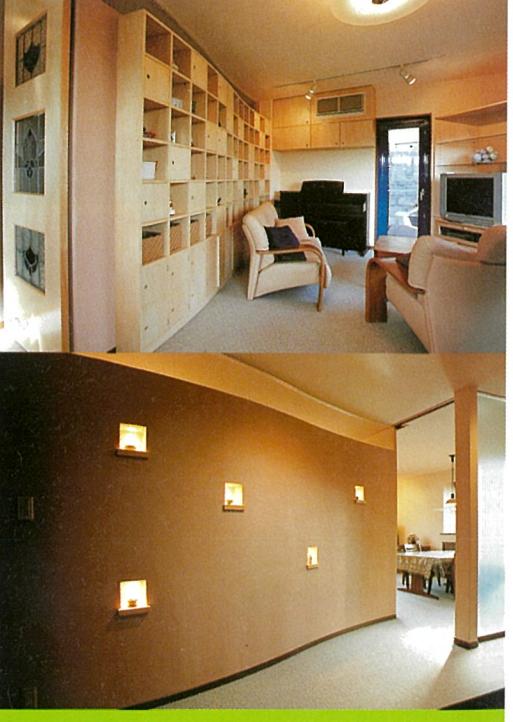
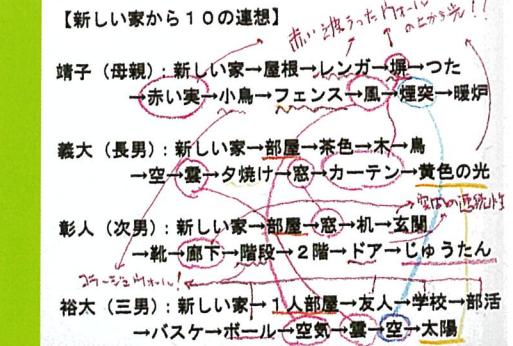
住まいは、耐久性、機能性、快適性、健康への配慮はもちろんのこと、癒され元気が出る家であつてほしいと思いま、「心と対話する家」を目指して設計しています。特に、建て主とのコミュニケーションを大切にし、コラージュや模型などを用いながら意識を共有しています。このため、建て主づくりへの参加の意味で、設計の最初に「理想の家」のコラージュ(切り貼り絵)を施主につくつてもらい、私はそれを手がかりにして設計します。

なぜコラージュを 住まいづくりに使うのか

コラージュは、フランス語のcoller(のりで貼る)から生まれた言葉で、絵や写真の切貼り絵のことを言います。心理学にも用いられ、ユング派のコラージュ療法があります。ユングは無意識から何かを意識化する力を創造性と位置づけ、その手法として自由連想法などを用いました。その後、ユング派の臨床治療において、箱庭療法やコラージュ療法へ発展してきました。私は、英国の建築学校で経験したコラージュでの建築表現に興味を持ち、帰国後これを何らかの形で建築設計に活かせないかと考え、コラージュによる家づくりを始めたのです。

コラージュを用いる さまざまなメリット

コラージュのよさはなんといつてもその気軽さです。雑誌や新聞などから好きな写真や言葉を切り取って、画用紙などに自由に貼るだけなので、絵心がなくても簡単にできます。また決まりがないので、好きにイラストやコメントを書き加えてもよく、自由で創造的なところが気に入っています。家づくりにおいて、子供は自分の要求をなかなかうまく説明できませんが、コラージュは簡単なので、家づくりに無理なく参加することができます。むしろ子供のほうが熱中し、魅力的な作品に感心することが多々あります。



WATER HOUSE

主のコラージュでいちばん気になったのは、緑色をした雲状であった。その形を立面に活かすとともに、「自然との一体感」コンセプトから「水の流れ」を露出した曲線梁に託した。建て主のときに住んでいた家のイメージから、シンメトリー、横羽板が、デザインのアイデアとして活きた。楽しさあふれるコラージュは、そのまま楽しい雰囲気の家になったような気がしている。

SUPPIN-HOUSE

自邸の設計でつくったコラージュの中で、妻がつくったコラージュにあった水滴状の切り貼りがとても印象的だった。その形が曲面で構成された外観へと発展した。息子のものからは格子の外壁、通り抜けの土間などに反映された。自分のものから得られたコンセプトは「土着性の変換」であり、縁側や吹抜の梁などに日本民家の要素、そして西日を楽しめるベランダなどに英国的要素を活かした。

WAVED HOUSE

家族それぞれに対して、「新しい家」という言葉を連想してもらえた。赤い実、カーテン、雲、風、黄色の光、太陽、空などの関連する言葉が、コンセプトである「波打った壁のある家」につながった。多様で豊かな言葉は、さまざまなものが収納できる「コラージュ棚」のデザインや、間仕切りで空間を自由につくりだすという、楽しみのあるアイデアにつながった。

どのように「コラージュ」を 家づくりに活かすのか

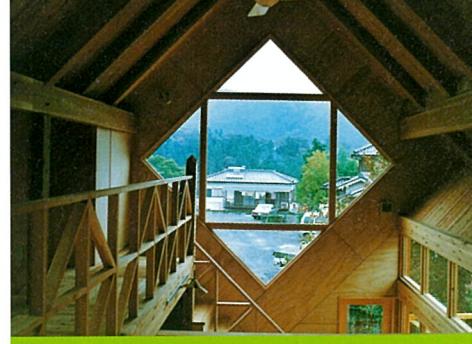
コラージュは読み取るのではなく、できるだけ感じ取るようにしています。動きが感じられるとか、落ち着いた雰囲気がするなどです。色、形、貼られているイメージの意味、コント、さまざまなものが、家の外観、平面など、デザインのヒントになります。これ以外に「連想」からコンセプトを見出したり、建て主の大切にしている「もの」からデザインを考えるなど、さまざまなアプローチをしています。

コラージュがつくる時の 気分で変わらないか

気分によって出来上がるコラージュは異なると思います。ただ、面白いことに、何枚つくっても共通点があり、デザインの手がかりを得るうえでは影響がありません。もちろん建物だけがそのまま貼つてあるものは、素直な意識がどらえにくいで、最初に「自由に楽しんでつくってください、建物ではなく好きな雰囲気やものを貼つてください」と伝えます。建て主の意識と創造性を新たな建築に変換したいからです。そうすることで「心と対話する家」が実現し、住み手が愛着を持つて大切に使ってもらえると信じています。

建築家の個性を活かすこと どのようにとらえるか

私は建築家の役割について、デザインを一方的に押しつけるのではなく、建て主の思いをなんらかの形で翻訳・変換することだと考えています。私の設計する家はそれぞれ異なると言われますが、これは建て主の個性が家として変換された結果と考えています。つまり「建築家の味」は、結果として現れているもので、表すものではないと考えているからです。強いて私の建築の特徴をあげるならば、自然素材と工業化素材を対比させることだと思います。コラージュに従い、素材のよさを活かすデザインが私の建築と考えています。



TREE HOUSE

家族4人のコラージュから中心性、シンメトリー、木漏れ日、緑、迷路性などのデザインキーワードを読み取ることができ、設計のコンセプトは成長する「ツリーハウス」とした。らせん階段を軸に見立て、各フロアが「葉」として、レベルを変えながら配された変化に富んだ空間構成が特徴である。さらに、トップライトの木漏れ日、土間の多様性、ベッドにある小窓、さまざまところに活かされている。

SKIP-HOUSE

建て主のコラージュで感じ取れたデザインキーワードは、回転、中心性、連続性、動きである。そこから建物全体をスキップフロアにするというプランにして、空間に連続性を与えた。加えてリビングと和室部分の角度を若干振ることによって、外観と内部空間に動的なイメージを加味している。家族のきずながよりいっそう感じられるとともに、元気が与えられるという願いを込めた設計である。

THROUGH VIEW HOUSE

建て主のコラージュで特徴的だったのは、2つの緑の四角い枠差しをいっぱいに受けたテーブルのイメージであった。外観を四緑のフレームで構成するとともに、大梁をデッキの上部まで突出させ、リビングとデッキに連続性を与えた。「見通しの家」のコロブトは山に向けて大きく開けられた大窓に反映され、垂木を連せるプランによって眺望の遠近感を際立たせる効果をねらってい